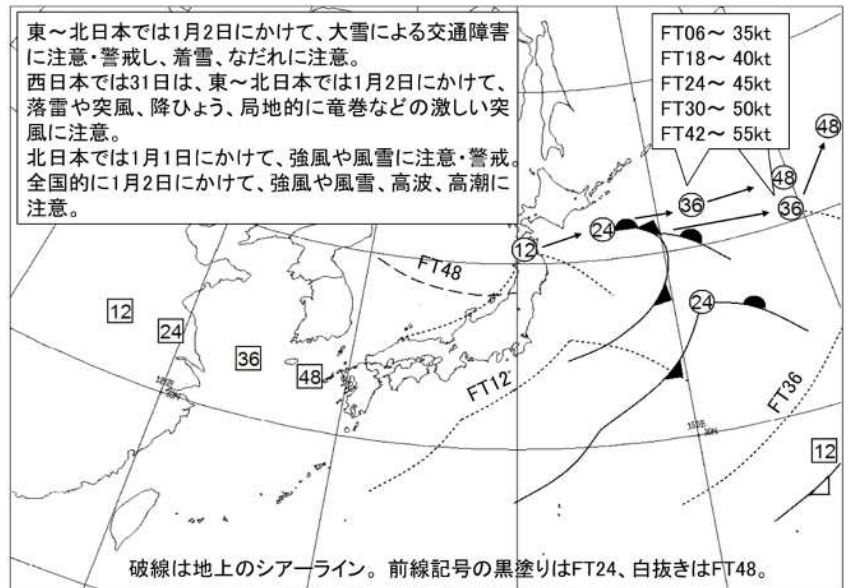


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa -33℃以下の寒気を伴った5220～5400mのトラフに対応する低気圧が日本海中部にあって、東進。東～西日本日本海側では、上空寒気や低気圧に向かって流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となっている所がある。東日本日本海側の海上を中心に1時間おおよそ15mmの雨量を解析、雷を多数検知。
- ② 小笠原諸島付近には高気圧があって、東南東進。東～西日本太平洋側～南西諸島には高気圧縁辺から下層暖湿気が流入し、1時間におおよそ20mmの雨量を解析、伊豆諸島近海で雷を検知。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の低気圧は、31日朝までに前線を伴い発達しながら東進し、津軽海峡付近まで進む。低気圧や前線に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となる所がある。西～北日本では31日は、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。
- ② 日本の南～東では、31日朝までに前線が顕在化。前線上の日本の東では、31日夜までに低気圧が発生し、北東進。低気圧や前線の周辺では、大気の状態が不安定となり、強い風が吹いて、波が高くしけとなる所がある。東日本太平洋側では31日は落雷や突風、急な強い雨に注意し、1月1日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 2項①の低気圧は、1月1日にかけて発達しながら日本のはるか東に進む。その後、日本付近は1月1日にかけて冬型の気圧配置となる。また、1月1日夜には日本海に地上のシアーラインが発生し、1月2日にかけて東日本日本海側にゆっくり南下する。北～東日本には500hPaで-30℃以下、850hPaで-9℃以下の寒気が流入し、大気の状態が不安定となり、大雪となる所がある。東～北日本では1月2日にかけて、大雪による交通障害に注意・警戒し、着雪、なだれ、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ④ 2項①の低気圧や冬型の気圧配置の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風や局地的には非常に強い風が吹いて、波が高くなりしけとなる所がある。北日本では1月1日にかけて、強風や風雪に注意・警戒。全国的に1月2日にかけて、強風や風雪、高波、高潮に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(06時からの24時間)：北海道・東北・北陸・関東甲信40cm。③ 波浪(明日まで)：北海道・東北・伊豆諸島・北陸・近畿・中国4、関東・東海3m。④ 高潮(明日まで)：大潮の時期。北～西日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。